

私のしあわせ研究

学長 小西聖子



今年四月から学長に就任しました小西です。しあわせ研究所の所長も前西本照真学長から引き継がせていただくことになりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本研究所では、2016 年の設立以来、西本学長の下で、様々なしあわせを目指す研究が行われてきました。多くの研究者の方々に、ご参加いただいたことは感謝に耐えません。昨年、研究の発表会に参加しましたが、本当に多様な人のしあわせの追求が集まっているのだと感じました。

「人のしあわせ」というときには、私たちは、その人が幸せに生きていることを思い浮かべます。一瞬のはかない幸運を得ることではなく、差別や貧困や飢餓のない生活のなかで、信頼できる人と安心して暮らしていく。しかし、それだけのことが、現代になっても、地球全体で見れば、全くと言っていいほど実現されていません。日本は確かに豊かな国ですが、その中にも様々な不幸や苦しみがあり、それほど状況がいいわけでもないことは、しあわせ研究所にご参加いただいている皆様には周知のことでしょう。

私は犯罪被害者支援、中でも暴力被害に遭った女性や子どもの支援にかかわってきました。私の専門は精神科医としての PTSD 治療ですが、30 年以上前に初めて、殺人事件の遺族の女性、上司からレイプの被害を受けた女性に会っ

て、回復のためのカウンセリングを始めました。当時は日本には被害者の心理的支援についても PTSD についてもほとんど情報が入っておらず、海外の文献だけを頼りに始めたカウンセリングでは、そのトラウマの深刻さに打ちのめされました。それでも、まずは聞くことが役に立つことだと実感し、30 年間同じ領域で仕事をしてきました。

日本でも被害を受けた人がどんな風に話せないのか、どんな風に苦しいのか、他の人にも知ってほしいと思って活動してきましたが、最初は砂漠に砂をまくような手ごたえのなさでした。数年後、いくつかの事件を経て、遺族を取り巻く環境は変わってきました。そして性犯罪の被害についても、当初は日本では永久に何一つ変わらないように思えましたが、2023 年の刑法改正を初めとしてここ数年の社会の変化は驚くばかりです。社会の認識も公的な制度も大きく変わったと感じます。

このことを、一つのことを信じてやれば必ず道は開けると、単純で楽天的なストーリーでとらえるつもりはありませんが、私は幸運にも社会が変わろうとする場に居合わせたのは確かです。研究者、専門家としてできることをあきらめずに続けることが、何かにつながったり、何かを新しく知ることにつながることは皆様にお伝えしてもいいかと思っています。

しあわせ研究所が今後どのように世界のしあわせをカタチにするのか、考えながら、今年はまず、さまざまな研究から学びたいと思っています。